2022　第 56 号

千葉支部だより

J・A・C

令和 4 年 1 月発行
発行元（公社）日本山岳会千葉支部
〒285-0850
佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方
発行者　松田　宏也
編集者　小川　和敏
E-Mail　cib@jac.or.jp

（表紙の絵）
白富士（忍野八海遠望）
水彩画　小菅　一弘

今年も気を緩めず登り、新しい仲間を増やそう　　千葉支部長　　松田 宏也

なんだかおかしな習慣がついてしまった。新聞の最後のページに掲載される日本の感染者数をみては一喜一憂。次にチェックするのは世界の感染者数。世界はいまだに感染拡大が収まらないのに日本だけが急激に感染者が減っている。同じワクチンを打っているはずなのになにゆえか？ブレークスルーに備えて 3 回目のワクチン接種も始まろうとしている。物事には原因があるはずなのに、はっきりしないままに良カレ良カレで以前の生活に戻っていく。喜ぶべきことだとは思うが、本当に大丈夫？という疑問符は天使のワッカの如く頭の上についたままだ。この？が頭から消えてゆくことを日本の状況だけではなく地球規模で注視する必要があるのだろう。いまや世界は密接につながっているというのが、コロナ禍で身に染みた現実でもあるのだから。この原稿を書いている時にも不穏なニュースが流れて来た。南アで見つかった感染力の強い「オミクロン型」の拡大懸念。まだまだ安心できる状況ではないということを思い知らされた。

さて、2021 もコロナに振り回された年のままで終わってしまったが、私にとっては①房総 Base の創立②役員会の zoom 会議化③ホームページの刷新④群馬支部との交流登山開始⑤初めての安全講習会（山のトラブル回避＆対処）開催となにやら盛りだくさんの年でもあった。加えて JAC 担当理事にもなりやたらと zoom 会議が増えることになったが、2021 年を総括すればコロナ収束後に備え、早め早めに手を打てた充実の年でもあったということになるだろう。

2022 年は打った手がじわじわと効き目が出てくる年になることを期待している。停滞していた山行と人との出会いの世界が、啓蟄で這い出す生き物のごとく山を求めて支部が活発に動き出す年になって欲しい。

ところで最近はキャンプが大流行でどのキャンプ場も満員御礼らしい。コロナ禍による生活の見直しと価値観の変化で自然志向・回帰熱が高まっているようだ。こんな時こそ山の魅力を伝え仲間に加わってもらう千載一遇のチャンスだ。新しい仲間が入れば支部もさらに面白くなるというものだ。「とにかくホームページを見て！」で若い方の勧誘をみんなでトライ、トライ、トライ！

「50 歳未満の入会金と年会費は 2 年間免除です」

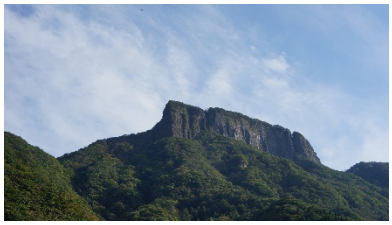
さて、有志の皆さんのおかげで房総 Base は見違えるほどきれいになり、快適に利用するために必要な物資をほぼ揃えることができました。改めて皆さんのご支援に御礼を申し上げるとともに、多くの方が Base での楽しいひと時を過ごしていただけるように管理運営の努力を続けて参りたいと思います。今年も多くの方のご利用とご支援を何卒よろしくお願いいたします。

［ 目次 ］

・山行記録 p 2～4
荒船山、足慣らしで榛名山、群馬支部「尾瀬合宿」と燧ケ岳、深田氏を偲ぶ茅ケ岳、錦秋の四国
・鹿野山古道調査プロジェクト　山口文嗣 p 5
・山行記録 p 5～6
両神山をリベンジ、晩秋の会津朝日岳、
・野口東京多摩支部長を招き山の医療講習会を開催 p 7
・山行記録 p 7～10
日光寂光沢で沢歩き、晩秋の紀伊山地、深まる秋の倉岳山・高畑山、伊予ケ岳と芋煮会、
富士に見守られ王岳へ、子ノ権現と竹寺
・こんにちは　上條誠一郎 p 10
・あの日の山　未踏峰に登頂し「シタ・ツツラ」と命名　高橋正彦 p 11
・ウォーキングクラブ活動報告　杉本正夫 p 12
・日本山岳会晩餐会ウィーク記念登山　陣馬山　齋藤米蔵 p 13
・支部山行の予定 p 13～15
・事務局からのお知らせ p 16

荒船山　三田　芳江

山行日/天候：9 月 24 日(晴れ)
参加者：L 小川和敏、宮崎美智代、三田芳江(3 名)
タイム：荒船山登山口 10:20→艫岩 12:00→
経塚山山頂 13:15→荒船山登山口 15:10



緊急事態宣言中の宿泊山行自粛で中止になった鳳凰山・観音岳山行の代わりに日帰り個人山行をという小川さんのお誘いで荒船山へ行った。日本二百名山の荒船山は荒海に浮かぶ航空母艦の様な日本では珍しいテーブルマウンテンだ。事故渋滞で到着が遅れたが準備運動後なだらかな山道を歩き始めた。

久しぶりの山は秋の始まりを見せてくれた。足元に転がる山栗・栃の実、様々なキノコ、トリカブトの花、少し紅葉が始まったリョウブ。木々の間から見える200ｍの断崖絶壁、艫岩を目指す。梯子やロープ、鎖場もありなかなか楽しい。

登りきると艫岩の上は平坦で歩き易い。絶壁からの滑落事故があり所々「のぞくな危険」の看板が立つ。神津牧場、佐久高原、浅間山、妙義山が眺められる気持ちのいい展望台で昼食。美味しいスープをご馳走になり身も心もほっこり。のんびりした後、リョウブやモミジの林を抜け1423ｍの経塚山山頂へ。「山はいいなぁ～」秋を楽しみながら来た道を戻った。

※個人山行

５０歳未満は入会金と年会費２年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、５０歳未満の新入会員は入会金 1,000 円と２年間の年会費（正会員 1,500 円または会友 3.000 円）を免除します。

足慣らしで榛名山へ　三品　京子

※個人山行

山行日/天候：10 月 3 日（晴）
参加者：CL 小川和敏、SL 今井貴朗、三田芳江、宮崎美智代、
三品京子（5 名）
タイム：駐車場 8:30→氷室山登山口 8:50→氷室山 9:20→
天目山 9:52→松之沢峠 11:15→ヤセオネ峠分岐
12:20→相馬山 12:50 →ヤセオネ峠分岐 13:30→
磨墨峠 13:50→ 駐車場 14:50

台風一過の晴天の日、緊急事態宣言が解除され久し振りの登山に行きませんかと誘われ榛名山山行に参加。榛名湖畔の駐車場から氷室山へ、登山口は夏草に覆われその間をかき分けながら進む、尾根に出ると今度は木の階段、少し登れば尾根道が出てくるだろう位の軽い気持で登るが終わりが見えない、榛名富士を横目に眺めながら 20 分ひたすら階段を登り山頂に辿り着く。流れる汗を拭きながら一休憩し次の山、天目山に向けて歩き出すも今度は下り、また上りの階段を繰り返し山頂にたどり着く、休憩後最終目的の相馬山へ向かう。

気持ちの良い笹尾根を歩き磨墨峠、磨墨岩下の行人洞に立ち寄り黒髪神社の鳥居（ヤセオネ峠分岐）をくぐると岩・鎖そして鉄梯子が現れる。登りがいのある登山道を楽しみながら相馬山にたどり着く。黒髪神社にお参り、山頂直下の木陰で昼休憩、小川リーダーが用意してくれたコーヒーを飲み景色を楽しむ。下山は磨墨岩分岐から、ゆうすげの道を歩き駐車場へと戻った。足慣らしの予定がトレーニングの一日となった。

群馬支部「尾瀬合宿」と燧ケ岳　　三田　博

山行日/天候：10 月 3 日　（晴れ）
参加者：L 三田博、松田宏也、笠原由紀、小山俊隆（4 名）
タイム：3 日・鳩待峠 8：40→山ノ鼻 9：40→
　　尾瀬小屋 12：00
　4 日・尾瀬小屋 5：45→見晴新道・柴安グラ 11：45
　　→長英新道 5 合目 15：00→長蔵小屋 16：45
　5 日・長蔵小屋 8：00→11：45 大清水

10 月 2 日、群馬支部恒例の「尾瀬合宿」に、私（三田）と松田支部長、本部の柏澄子常務理事と参加した。秋が始まったアヤメ平を群馬支部会員の樹木レクチャーを聞きながらゆっくり歩いた。その晩は、新しく千葉支部会友になった笠原さん、小山さんも交え、ロッジ長蔵で賑やかな群馬支部の懇親会に参加した。

翌 3 日はのんびりと尾瀬ヶ原を歩き、見晴らしの尾瀬小屋へ。お昼には小屋のテラスで尾瀬ヶ原を眺めながら生ビールで乾杯！　やっぱり尾瀬はいいですね。夜は星がきれいでした。

10 月 4 日、朝食を弁当にしてもらい早出。朝もやの尾瀬ヶ原を背に樹林帯へ見晴新道を歩く。時折り、後続の登山者に道を譲りながら急登をこなす。ようやく到着した柴安グラは日が差して暑いほどだった。下山は長英新道で長蔵小屋を目指す。下りも長くなかなか着かない。尾瀬沼が見えてきた時はホッとした。長蔵小屋では女将の平野紀子さん（群馬支部顧問）が、夕食後に囲炉裏部屋に招待してくれ、越後の酒を飲みながら四方山話を聞かせてくれる。囲炉裏の火にあたりながら、4 代目主人の太郎さん、長蔵小屋 4 代にわたり仕えてきた従業員のスケさんからも昔ばなしが聞けて、楽しい夜だった。

10 月 5 日、ゆっくり朝食を摂り小屋を出発、尾瀬沼に沿って三平下へ。今日も快晴、尾瀬沼の向こうに昨日登った燧ケ岳が大きく高く見える。紅葉が始まった三平峠で一休みして、下山にかかる。急な道を降りていくとあっという間に一ノ瀬だ。ちょうどシャトルバスが待機していたので、大清水まで乗車する。大清水からはロッジ長蔵までタクシーで行き、車を回収。その日は、日光丸沼のペンションに宿泊、ワインとイタリア料理を楽しんだ。

10 月 6 日、当初予定では日光白根に登る予定だったが、天気予報があまり良くないので戦場ヶ原散策に変更。草紅葉の紅葉を楽しみながら小田代ヶ原をぐるりと回り、千葉へ帰った。

深田氏を偲ぶ茅ケ岳　　香高　真奈美

山行日／天候：10 月 9 日（曇りのち晴れ）
参加者：　CL 今井貴朗、山崎完治、湯下正子、香高真奈美
　　（4 名）
タイム：林道登山口駐車場 10：00→女岩のコル 11：00→
　　茅ヶ岳山頂 12：30→林道登山口駐車場 15：40

6：30 に西船橋に集合し、今井さんの車でいざ出発。西に進むにつれて雲が消えて晴れてきた。車は韮崎市へ。深田記念公園ではなく、その上の小さな駐車場に運良く停められて、林道登山口から登山開始。背の高いカラマツ林の中の気持ちよい道に山崎さんの熊鈴の音が響く。今井さんは以前ここに来た時、下の谷筋に熊を見たという！

女岩を迂回しながら急傾斜の道を登る。岩や木の根や土の階段は、苦しいけれど大好きだ。日常の街の中の階段ではないこの瞬間、この空気を楽しみたい。道筋にはトリカブトの紫色の花や、白い小さな山野草も咲いている。深田久弥氏終焉の地を示す石碑にやっと出て合掌。そこからもうひと頑張りで 1704m の山頂だ。南アルプスや瑞牆山、奥秩父の山々を見渡せる展望に大満足した。

下りもまた楽し・・行きとは違う尾根道にて駐車場へ。今年は深田先生没後 50 年ということで、秋の土曜日に登山者でさぞ賑わっているかと思いきや、すれ違う人はとても少なかった。

今井さん、今回リーダー公式デビューとのこと、素晴らしい山旅をありがとうございました！

錦秋の四国　　三田　芳江

※個人山行

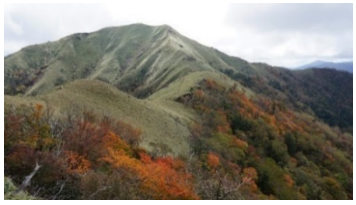
山行日/天候：10 月 9 日(晴れ)、10 日(晴れ)、11 日(雨のち曇り)、12 日(曇り)
参加者：CL 小川和敏、SL 三品京子、平出正美、吉田望、宮崎美智代、三田芳江(6 名)
タイム：9 日/土小屋 8:15→休憩所 8:50→東稜基部 9:35→弥山 11：20→天狗岳 12:30→南尖峰 12:45→東稜基部 14:35→土小屋 15:15
10 日/見ノ越登山口 10:00→西島駅 11:00→大剣神社 11:40→山頂 12:10→吊り尾根分岐 12:40→次郎岌 13:30→見ノ越登山口 15:15
12 日/皿ヶ嶺登山口 12:00→竜神平 13:00→山頂 13:50→皿ヶ嶺登山口 15:00

7 日夜に千葉県が震源地の地震が起き交通機関が混乱する中、8 日夕方に成田空港を発ち松山空港で先発組と合流。他のメンバーは二度目だが私にとっては初めての四国。西条の休暇村に宿泊、明日からの山行に期待が高まる。

9 日：6 時に宿を出発。快晴の中「天空の道」UFO ラインを通り紅葉が美しい四国の山々の大パノラマを眺めながら登山口駐車場へ。石鎚山は標高 1982m 西日本最高峰の百名山。千葉県の「伊予ヶ岳」は伊予国の石鎚山に山容が似ている事から名前がついたとか。紅葉の時期は混むとの予想通り駐車場は大混雑。準備運動後、歩き始める。登山者が多く途中で行列になるところも・・・色とりどりの景色を見ながらゆっくり進む。

東稜基部で小休止。二の鎖からは鎖場組、迂回路組に分かれ弥山を目指す。前回は三の鎖を諦めたそうで今回は再挑戦。65m、67mの長く太くて大きな鎖をどう上るのか？二の鎖の下、急な岩壁を眺めて思案する。後から来た人に先に行ってもらい登り方を見て続いて上る。鎖を握り指先で岩を探り慎重に足場を決めながら全身を使って上り切った。ホッとしたのも束の間、暫く行くと三の鎖が現れた。地元の慣れた登山者から三の鎖攻略法を教えてもらい二の鎖より楽に～リベンジ成功！弥山で迂回路組と合流。石鎚神社前の広い場所で昼食。座る場所がない位の大勢の登山者。こんな山頂の風景は初めて。ここから迂回路組と天狗岳から東稜に行く組とに分かれた。天狗岳に行くルートも渋滞。スリル満点の岩峰のナイフリッジと眼下の紅葉を楽しみながら山頂から南尖峰へ下る。バリエーションルートの東稜コースに行く人は殆どいなかった。青空にそそり立つ天狗岳の裏側の静かな絶景を満喫。やせ尾根から背の高い笹原を掻き分け続け東稜基部へ。待っていてくれた迂回路組と合流。土子屋へ戻った。

10 日：徳島県最高峰の剣山へ。標高 1955m の日本百名山。別名「太郎岌」。秘境の天空の村「かかしの里」を通って見ノ越登山口へ。剣神社の長い石段を上る。昨日の疲れが残る足が重く景色に励まされ進む。もみじ祭り開催中で見事な紅葉だ。赤、黄色の一面に広がる落ち葉の絨毯。木道が敷かれた広い山頂で昼食予定だったがガスって風が強いので分岐まで下った。昼食後、「次郎岌(1930m)」に向かう組と下山組に分かれた。次郎岌山頂から歩いて来た美しい稜線を眺めた。下山途中、日本名水百選に選ばれている「病気を治す若返りの御神水」を頂き、西島駅で先に下った組と合流。リフトで下山の人と分かれ登山口に下りた。



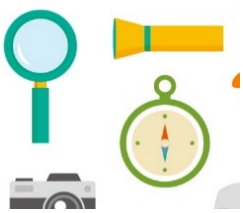
11 日：雨予報だったので連日の疲れを癒すのに休養日に。朝、宿泊した梶ヶ森山荘の周辺を散策。軽くウォーキングのつもりが千段の階段を上るトレーニングコース。宿泊地に移動途中、かずら橋、モネの庭を観光。

12 日：皿ヶ嶺に向かうが通行止めで引き返し、登山口に到着したのが予定より遅れ 12 時に。登山口近くの風穴では冷風を利用しヒマラヤの青いケシを育てていた。歩き易い山道を登り、水楢の巨木の森を抜け霧がかかる幻想的な湿原「竜神平」で昼食。滑りやすい急登が続き、展望のない山頂(1271m)に到着。１時間程で下山。四国最後の山に癒された。

四国の山の印象

周知のように、四国には日本百名山が石鎚山と剣山の２座のみです。しかしながら、四国山地と呼ばれるようにクルマで走ればその一般道路は山の中、渓流や川沿いがほとんどです。中には、国道でありながら「酷道」と呼ばれる道路も。山の案内本などに助けられ幾つかを登りましたが、とにかく登山口が判りにくく、そこにたどり着くのに一苦労といった山ばかり。西条方面から石鎚山土小屋に通じている「ＵＦＯ（有峰）道路」沿いの笹ケ峰、寒風山、伊予富士、瓶ケ森などは唯一の例外かと思われます。全体として、やはり信仰の山が多いことは想像に難くないようです。　（小川和敏）

●　鹿野山古道調査プロジェクト　●



いよいよ、山口文嗣さんリーダーの鹿野山古道調査プロジェクトが始動しました。
全体で７回の予定としていますが、今回は第１、２回の調査状況の報告となります。

●　鹿野山古道調査第１回

日時：11 月 6 日　　参加者 10 名

日本山岳会創立 120 周年記念事業の一環の『日本山岳会が選ぶ「日本の山岳古道 120 選」』の中の千葉支部担当古道の第 1 番目として、鹿野山古道の調査を開始いたしました。
第１回目は総勢 10 名で、切られ与三郎の墓のある木更津駅前の吉祥山光明寺をスタートし、狸ばやしの證誠寺や上総堀り発祥の地などを通り、5 時間かけて約 20 ㎞歩き小糸中島にゴールしました。

●　鹿野山古道調査第２回

日時：11 月 14 日　　参加者 13 名

前回到達点の小糸中島よりスタート。鹿野山参道の古碑のある福岡を右折。途中、荻作の牧場前の竹林の中に芭蕉句碑がある。また、日本武尊と戦って敗れた阿久留王の墓と謂われる塚に立ち寄る。
登り切った所に推古天皇 6 年（598 年）聖徳太子によって開山された関東最古の寺院鹿野山神野寺がある。

両神山をリベンジ　　**宮崎　美智代**

山行日/天候 10 月 22 日(雨) 10 月 23 日(晴れ)
参加者：CL 小川和敏、SL 今井貴朗、三品京子、三田芳江、
宮崎美智代（5 名）
タイム：22 日:雨のため移動日
23 日:登山口 7:30→会所 8:00→清滝避難
小屋 9:40→両神神社 10:55→山頂 11:35→
両神神社 12:30→清避難小屋 13:30→
会所 14:55→登山口 15:30

23 日:予報通り晴れ。宿のおにぎりを受け取り 6:30 出発。晴れの土曜とあって登山口にいくつかあるパーキングはいっぱい。空きのあった有料パーキングになんとか駐車する事が出来た。準備をし 7:30 登山開始。今回は 1 年前豪雨のため途中断念したリベンジ登山だった。前回の暗い雨の登山道とは違い、朝日を浴びた明るい道に足取りが軽かった。30 分ほど歩いてベンチのある広場・会所で軽く準備体操をし、また登り始めた。ここからは渡渉を何度か繰り返し、上りがやや急になったが途中石柱や不動明王などの石仏に手を合わせたり、弘法の水を頂くなど変化のある登山道であった。避難小屋からは手入れのよくされた公園のような針葉樹林帯の急斜面をジグザグに上る鈴ヶ坂を過ぎ、鎖や階段のある産泰尾根をぬけ、やっと両神神社へと着いた。両神神社の狛犬は獅子姿ではなく狼で可愛らしかった。かなり疲労していたが山頂まではあとひと踏ん張り。SL の「ここからは少し穏やかな道なので足腰を整えながら行きましょう」の声かけに気持ちを入れ直した。

そして、最後の岩場を過ぎ念願の山頂へ。急に開けた山頂付近の景色と遠い山の合間に雪の積もった富士山がみえ、みんなで踏めた頂上にひとしお感動だった。下山もなんとか、ほぼ予定通りの時間に無事着く事が出来た。リベンジ成功に、皆様と天気に感謝の一日でした。

晩秋の会津朝日岳　　坂上　光恵

山行日/　10 月 22 日～24 日（天候：曇り、晴れ、雨、霧、霰、雪）
参加者：L 松田宏也、三田博、山口文嗣、坂上光恵（４名）
タイム：22 日　只見町　旅館みな川（泊）
23 日　赤倉沢登山口 9：10―赤倉沢越 10：00―三吉ミチギ 10：50―人見ノ松 12：45―叶ノ高手 13：40―熊ノ平―避難小屋 14：35
24 日　避難小屋出発 5：55―バイウチノ高手―会津朝日岳 7：55―頂上発 8：10―避難小屋 9：40―大クロベ 11：30―ミチギ 14:00―登山口 15：00

23 日、前日からの雨がなかなか止まず心配していたが、登山口（標高 550m）に着くまでに何とか小降りになってきた。今日は避難小屋泊まりなので雨に濡れるのは避けたい。橋を 2 回渡りしばらく緩い坂道を行くと三吉ミチギの水場に着く。水場といっても小さな場所で、ここが最後の水場なので、今日は自炊ということもあり補給に努める。といっても自分の分だけで精いっぱい。大切に使わなければ。

そこからいよいよ上りが本格的になってくるが、天候のせいか他に登山者はなく、静かな山を満喫していると霰が降ってきた。登山道は迷うようなところもなく進んでいくことができるが、下りは殆どなく樹林帯で展望が殆どきかない。ブナが多い樹林帯を出て灌木帯にでたところで、やっと周囲の山を見渡せる人見ノ松に到着する。休むとやはり寒いがひと頑張りで叶ノ高手 1430m まで行きやっと頂上を目にすることができた。驚いたことに紅葉もあまりすすんでないのに、なんと頂上の稜線は雪で白くなっている。ここから熊の平まで少し下りがあるが、途中朝日岳の大クロベと呼ばれる幹回り 5m もの大木があり熊ノ平に出る。40 数段の階段を上ると急こう配の三角形の避難小屋が待っていた。夕食は山口さんと三田さんが頑張って持ってきて下さった多くの食料に感謝感謝。小屋の周りはやはり雪が舞っているが、10 人収容の小屋でいろいろのものを吊るし、楽しい？おしゃべりに寒さも感じず過ごした。

24 日、4 時起床。6 時前には出発と予定通り。昨日より雪が多くなりすぐに登山道も真っ白になってきた。20 分ほど急登を上ったとき松田さんが「熊の足跡だ！」しかも新しい！という。ほんとに今さっき歩いたような感じで、一瞬立ち止まってしまう。何か動物の匂いがするといっていたのだ。どうも左手の藪のほうに行った様子だ。急登を過ぎると目の前に頂上への岩場が広がり、雪が被り滑りやすいので緊張して進み稜線に出、少し進むと頂上（1624m）だった。展望を期待したが、ガスのため何も見えない。下りは岩場の落石に注意しながら下りていると、近場の人たちが上がってきた。30 分ほどするとで天候も良くなり昨日より紅葉も進んでいるようなきがする。関東からは距離があるが、新潟や福島の人たちには行き易い山のようだ。2 日間ですべての天候を味わった面白い山だった。

山の豆知識

※合目とは？

登山につきものの「※合目」ですが、どのように決められているのでしょうか？少し調べてみましょう！登山口から頂上までを１０区分したもので、１０等分でないところがポイントのようです。距離や標高よりも登る人の感覚を元に長い時間をかけて定着したものが多いようです。登山口近くは勾配が一般的には緩いので合目間が長く、頂上付近では難易度もあがり合目間が短くなる傾向です。また、登山に休憩は付きものなので、少し広くて平らな場所が合目地点として選ばれることになります。有名な富士山が合目発祥の山と言われていますが、周知のように４本の登山道（御殿場口、富士宮口、須走口、富士吉田口）が有り、すべての合目地点の標高が違うものになっています。

そして、なぜ「合目」と言うようになったのか？身近なものではお米やお酒の単位でしょう。浅間神社資料では、升から開けた一升の米が山の形だったことから十合に？夜行登山で提灯の燃料１合分が無くなって足した地点だとか？道に迷わないようにお米を少しずつ撒きながら登り１合分が無くなった地点だとか？・・・諸説紛紛？？？世界山岳百科事典によれば、頂上までの「十合」は「十界」に繋がり、５合目までを地界、先を天界と呼び、修験道が形成されることになります。頂上となる究極の悟りは「妙覚」と呼ばれるそうですが、何となく登頂の感覚としても納得出来るような・・・

●　野口東京多摩支部長を招き山の医療講習会を開催　●

登山でのトラブルに備えて「山の救急医療講習会」が 11 月 27 日、東京多摩支部の野口いづみ支部長を講師にお招きして行われた。会場の千葉市民センターには会員・会友 28 名が参加した。

足のけがや膝痛・腰痛などに対して、テーピングの具体的なやり方がプロジェクターで上映された。山で実際起きたトラブル例が次々写され、医師ならではの説明に参加者は真剣に聞き入った。芍薬甘草湯が足つりに効くとはなんとなく知っていたが、大正漢方胃腸薬にも甘草が含まれていることや、ゴムベルトの巻き方、予防のためのストレッチ・テーピングなど一つ一つが具体的で大変参考になった。

ヤマビル・ハチ・ダニなど虫刺されの話、スズメバチのアナフィラキシーショックなど興味深い話が聞けた。心臓と脳の話では、山では平地より 2.5 倍突然死が多くなること。下山後のアルコール摂取と脱水に注意することなど、少し耳の痛い話も。最後に登山を長く続けるためのトレーニング方法など聞けて、とても有意義だった。

≪懇親登山≫　講習終了後は房総Ｂａｓｅで懇親会をおこない、翌 28 日は鋸山に登った。意外なことに野口講師は鋸山は初めてとの事で、日本寺大仏や地獄覗きなど観光コースを回った後、鋸山山頂を案内した。この日は快晴で、展望台では雪を被った富士山や南アルプス、伊豆諸島、筑波山まで眺めることができた。

日光寂光沢で沢歩き　　三田　博

山行日/天候：10 月 30 日　（晴れ）
参加者：L 三田博、三田芳江、宮崎美智代、森川雅子（4 名）
タイム：10：10 寂光沢入渓→11：10 休憩地でロープ練習→
12：50 聖天ヶ岩→14：30 入渓地→16：05 東武日光駅

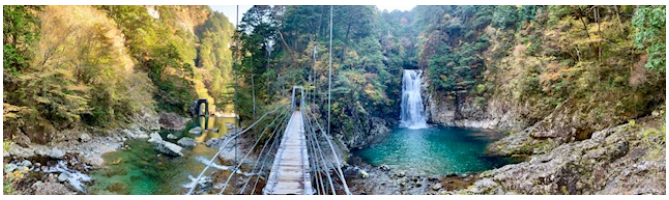
東武日光駅からタクシーで寂光滝へ。7 段 50mの豪快な寂光滝を見に来た人が数組いた。もちろん滝は登らずに巻き道へ。滝の上から入渓する。沢は危険なところもなく、左右に行ったり来たりしながらのんびり沢歩き。青苔とミズナラ林の紅葉が素晴らしい。今日は時間もあるので、休憩時に斜面の木にロープを回して懸垂下降の練習を少しだけする。

遡行を再開して扇型に広がったナメ滝を登ると早くも源流部。小石を敷き詰めた平坦な場所から水が湧いているよう。よく見ると、脇の斜面に生えた巨木の根元から水がどんどん流れ出て、全く不思議な光景だった。さらに急斜面をひと登りすると、笹原の台地。その一番奥に大岩壁が聳えている。ここが聖天ヶ岩と呼ばれる場所だ。くり抜いたような洞窟に祠が祀られていた。日当たりの良い岩壁に山ぶどうがたくさん実をつけていた。

帰りはカラマツ林と笹原をやぶ漕ぎすると女峰山からの登山道へ出ることができた。赤テープを頼りに下山するが、朱色のカエデや黄葉した広葉樹の写真を撮りながら歩くのでなかなか進めない。最後、急な道を降りて寂光滝の駐車場に到着した。30 分ほど歩いて田母沢御用邸前のバス通りに出るが渋滞中。バスに乗るのも面倒なので「神橋」など見物しながら駅まで歩いた。

晩秋の紀伊山地　　中場　義則

山行日：10 月 29 日～11 月 4 日　（全日晴れ）
参加者：CL 小川和敏、SL 三品京子、平出正美、中場義則（4 名）
タイム：30 日/宿 8:00→清浄大橋 9：00→大台ケ原駐車場 11:10→日出ケ岳 11:40→正木ケ原 13:00→大蛇嵓 14:00→大台ケ原、心・湯治館 15:10
31 日/宿 8:00→ｼｬｸﾅｹﾞ坂 10:30→堂倉滝 12:15→桃の木山の家 15:30
1 日/宿 7:10→ニコニコ滝 8:20→シシ淵 8:50→千尋滝 10:10→ニコニコ滝 11:30→桃の木山の家 14:10（連泊）
2 日/宿 6:40→七ツ釜滝 7:10→光滝 8:10→堂倉滝 9:00→粟谷小屋 10:40→日出ケ岳 14:00→大台ケ原、心・湯治館 14:50
3 日/宿 7:00→行者還ﾄﾝﾈﾙ登山口 8:30→弥山小屋 12:00→八経ヶ岳 12:50→弥山小屋 13:30→弁天ノ森 14:30→同登山口 15:30→朝日館



今回の山行は、私がどこかの山の頂上で聞いた「関西の大杉谷は、紅葉がとても素晴らしいので是非いらしてください」という言葉からスタートしました。数か月後、小川Ｌにお声がけをして実現できた山旅です。

30 日：今もなお女人禁制の山上ケ岳登山口探訪と柿の葉寿司を求め、大台ケ原駐車場に着いたのが午前 11 時を過ぎていたため、満車状態でしたが、公衆トイレ前に停められるという、1 回目の奇跡がありました。大台ケ原ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰから東大台コースに入り、モミやツガの林の中を最高峰の日出ケ岳 1695mを目指します。二層式の展望台からの景色を楽しんだ後、大蛇嵓に到着して、こわごわ断崖絶壁の突端に立ちました。眼下の谷底まで高低差 800mですが、クサリの囲いがあって安心しました。

31 日：富山の黒部渓谷、新潟の清津峡とともに日本三大峡谷の大杉谷までの下りに挑戦します。堂倉谷まではｼｬｸﾅｹﾞ尾根をひたすら下るだけですが、これがキツイのなんのって汗だくです。標高差約 1400mの大杉谷の門を開けて迎え入れてくれた堂倉滝の美しさに心癒されました。この先、伊勢湾に流れ込む宮川の渓谷に沿って紅葉に彩られた与八郎滝、光滝、七ツ釜滝（日本の滝 100 選）を堪能しながら桃の木山の家に到着しました。到着と同時に降り出した大雨が、2 回目の奇跡でした。

※個人山行

1 日：夜半まで降っていた雨が渓谷沿いの歩道を濡らしていて、一歩ずつゆっくりと進みます。岩盤を削って設けた道には、ずっとクサリがあって助かりました。大杉谷のポスターになっているシシ淵とニコニコ滝のコラボが素晴らしかった。千尋滝で引き返して、明日の日出ケ岳までの登り返しに備えて休養しました。

2 日：いよいよ大台ケ原に向かっての早めのスタートです。七ツ釜滝、崩壊地、光滝、堂倉滝と思った以上に順調に進みました。これから始まるｼｬｸﾅｹﾞ尾根の登りは過酷で、選ばれし者たちだけが堪能できる大杉谷とのお別れです。素晴らしい紅葉と轟きをありがとう。また逢う日まで。途中、出会った年配の登山者の方が美味しい料理と自慢の風呂と力説してくれた粟谷小屋で一服して、今度は黄色く染まったブナ林から登り始めました。ｼｬｸﾅｹﾞ平を過ぎると待っていた日出ケ岳直下の階段を何とかクリアして大台ケ原に無事生還。心臓破りの上り坂８時間を経験しました。

3 日：紀伊の名峰大峰山脈の八経ヶ岳 1915m が最後の目的です。近畿地方の最高峰でもあります。まずは弥山を目指して歩を進めると、九十九折に整備された修験道が優しく続いていました。弥山小屋から八経ヶ岳までは往復 1 時間で急登はありません。錫杖が立つ頂上からは山上ケ岳や稲村ケ岳などの眺めが最高でした。この旅を〆るに相応しい老舗の旅館で懐石料理をいただきながら、楽しかったことや苦しかったことなどを振り返りました。

深まる秋の倉岳山&高畑山　　森川　雅子

山行日/天候：11 月 7 日（晴れ時々曇り）
参加者：CL 今井貴朗、SL 小川和敏、三品京子、平出正美、三田芳江、香高真奈美、森川雅子（7 名）

タイム：梁川駅 9：20→月尾根登山口 9：50→倉岳山山頂 12：00→天神山山頂 13：00→高畑山山頂 14：00→鳥沢登山口 15：00→鳥沢駅 15：45

一時は雨予報に不安だったものの、当日は秋の登山日和。ヤッホーヽ(^o^)丿

標高290mの梁川駅を発し、登山口にて体操後、登山開始。枯葉積もる穏やかな路からスタート。高い木々の合間に見える空は明るい曇り空。気温は高くなく涼やかだが、昨日と朝方の雨で湿気が高く、登り始めると思いのほか暑い。

徐々に青空が広がり、木漏れ日に黄色く染まった葉が映えるので滑りやすいが、山自体は、登りと下りの間に平坦な道が繰り返され、階段がなく歩きやすい道のり。

12時に倉岳山山頂990m着、昼食。看板によればかなりの大きさで目の前に見えるはずの富士山は残念ながら雲の向こうに。三品さん小川さんがコッヘルでお湯を沸かしてくださる。山頂でいただく熱いスープ、コーヒーに気持ちがほぐれてほっこり。

また同じような標高の高畑山に上がることがわかっているだけに残念感大きく、疲れもあって、「まだ下るのかーい」と皆であれこれおしゃべりしつつ進む。その後急登を経て、天神山山頂。見晴らしはない。更にアップダウンを繰り返し次の高畑山山頂982m着。相変わらず富士山は見えないが、手前の山々の眺望はキレイ。急な下りを順調にこなし、予定より1時間早い電車に乗ることができました。

お天気に恵まれ、おしゃべりと笑い声も弾みつつ、雨上がりの静かな森林浴をたっぷりと楽しめた一日でした。みなさま、ありがとうございました。

伊予ヶ岳と芋煮会　　三田　博

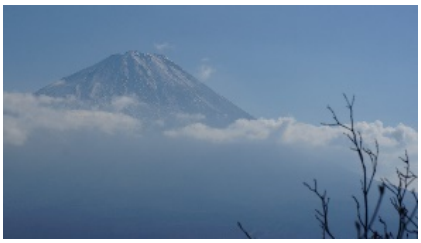
山行日/天候：11月13日　(晴れ)
参加者：L 三田博、三田芳江、齋藤米造、國宗文、小川和敏、松田宏也、湯下正子、小林みゆき、平出正美、古賀良子（10名）
タイム：平群天神社10：00→東屋10：40→南峰11：30→北峰11：40→平群天神社13：00

穏やかな秋晴れ。房総のマッターホルンこと伊予ヶ岳に登る。短時間で登れて岩場ではスリルが味わえ、さらに頂上に立つと見晴らしがいいので人気の山だ。この日も総勢10人で登ったため鎖場で渋滞になってしまい、他の登山者には迷惑をかけてしまった。山頂からは雪化粧した初冬の富士山、南には伊豆諸島までくっきり見えた。それにしても登山者が多いためだろうか、土が抉れて岩が剥き出しになり頂上直下は急傾斜になってきたような気がする。

登山後は、みんなで房総Baseを見学し、夕方からは宿泊組を中心に芋煮会をする。牛肉と里芋がたっぷり入った「山形風芋煮」がとっても美味。料理してくれた女性陣に感謝です。

富士に見守られ王岳へ　　湯下　正子

山行日(天候)：11月20日（晴れ）
参加者：CL 小川和敏、SL 三田博、湯下正子、三品京子、香高真奈美、三田芳江、宮崎美智代、平出正美(8名)
タイム：根場登山口10：00→鍵掛峠11：45（昼食）→鍵掛峠出発12：15→王岳13：45→王岳出発14：00→根場登山口15：30



絶好の登山日和に恵まれ、中央道から富士山が迫って来るように美しい姿を見せてくれる。

富士山を楽しみながらも、コロナ禍から解放された行楽客で渋滞にはまってしまった。途中、別車と連絡を取りながら進んだが、予定のSAは満杯とのことでそのまま目的地の根場登山口へ直行。合流後ストレッチをして全員王岳を目指して出発。歩き易い登山道で気持ちよく登る。何しろ大きな富士山が雲にかかったりくっきり見えたり、楽しませてくれる。晩秋の山は落葉樹が葉を落とし、青空がさらに大きくなって澄んだ空気を目いっぱい吸わせてくれる。鍵掛峠に到着してお昼の時間。朝早かったから昼食が待ち遠しかった。三品、小川さんが重いバーナーや水を運んでくれ、暖かいスープが振舞われた。峠の陽だまりで風もなくゆっくり昼食を楽しみ頂上を目指す。

頂上から西湖を見下ろす。下山は歩き易く無事に根場登山口に到着。一日中、大きな富士山が感激の山行だった。

子ノ権現と竹寺　　國宗　文

山行日：１１月２１日（晴れ）
参加者：L 三田博、三品京子、三田芳江、宮崎美智代、
　　平出正美、山﨑完治、國宗文
タイム：西吾野駅 9:30→小床橋→子ノ権現 11:30→
　　豆口峠 12:30→竹寺→小殿バス停 14:30

毎日のコロナ感染者の数字が激減し今のうちに出かけようという意気込みなのか日曜日の西吾野駅は驚きの人の多さ。９時半に駅を出て車道を少し歩いてから里山を経て登山道へ。柚子が沢山実っていてこの辺りの名産だとか。枝打ちされ手入れされた木立の中を徐々に登る。駐車場に続く車道を横切りひと登りすると子ノ権現の参道へ。黒門を抜けると何とも言えない色彩の仁王像が私たちを迎えてくれた。子ノ権現天龍寺は足腰の神様、飾られた鉄わらじは日本一らしい。

竹寺への分岐で少し迷ってから豆口峠で昼食。三品さんがスープやコーヒーをふるまってくれた。下りつつ竹寺へ。女子が喜びそうなかわいいお寺だ。精進料理のコースもあって結構有名らしい。竹寺からは小殿のバス停がある県道まで一気に下る。５時間程度のハイキングだった。

子ノ権現とは

正式名称は「天台宗特別寺子ノ権現天龍寺」です。公式 HP によると 10 世紀に「子の聖」が創建したとあります。「足腰守護の神仏」として有名で、多くの高齢者がお参りすることで知られています。お寺の公式縁起によれば、「一般に足腰の調子が良くない方を始め、古くは人力車、荷車関係の方、農林漁業に従事していられる方々や相撲取り力士、陸上競技・野球・サッカー・バスケット・スポーツサイクルなどのスポーツ関係の方々、トレイルラン・ハイキング愛好者が年間を通じてお参りされます。」とあります。登山の文字はありませんが、当然、お参りした方が宜しいかと思われます。

♪　こんにちは　♬

初めまして、千葉県の松戸市に住んでいる中学 3 年の上條と言います。中学で山岳部に入り登山を始めました。しかし、登山を始めてから 2 年目に新型コロナウイルスが流行してしまい、部活の活動が制限され、登山に行ける回数が減ってしまいました。

今年になりコロナが少し落ち着いたと思っていたら再拡大してしまい今年の夏合宿に予定していた立山の計画も全て中止になってしまい、山岳部の山行だけでは物足りないと思い 7 月にこの千葉支部に入会させて頂きました。

これまでには八ヶ岳の硫黄岳や瑞牆山、大菩薩嶺、金時山、明神ヶ岳、御岳山、高水三山、黒斑山などの山に登ってきました。

登山を始めてからまだ 3 年しか経ってなく、登った山の数や知識や経験が少なく浅い未熟者ですがよろしくお願いします。

（ 写真は初めて参加した支部山行の阿武隈山系の大滝根山です ）

あ　の　日　の　山

未踏峰に登頂し「シタ・ツツラ」と命名

高橋　正彦

1970 年、ネパール政府はヒマラヤ登山の解禁を発表しました。

日本大学山岳部は学生を主体とする登山隊を派遣することを決定しました。隊の構成は隊長には日大教授で山岳部部長の清田先生（当時 60 才）、登攀隊長には私（当時３２才）が、他にドクター1 名、学生が 7 名、高所シェルパ 6 名、ネパール政府連絡官 1 名の 17 名です。目標の山は未踏峰のバウダー峰です。ところが日大は準備が遅れ 1970 年プレモンスーン（春）には間に合いませんでした。そして、慶大が先にバウダー峰を登頂しました。そこで、当時、ネパールに滞在中であった宮原先輩に「学生主体のほどほどの難しさの未踏峰で 7000m以下の山を探して下さい」と依頼しました。早速、高度 6500m位のダウラギリ山塊にある未踏峰で無名峰の写真を送ってきました。とても気にいりました。これでネパール政府に申請し登山許可を取得して頂きました。

話は飛びますが、1970 年ポストモンスーン（秋）にポカラから一週間の楽しいキャラバンも終わり、ツクチェ村から登山開始です。1970 年 9 月１６日ヒドンバレー（5000m）ベース・キャンプ集結。早速、ルート偵察と検討を行い、写真左側の尾根をルートして前進しました。ここの難点はジャンクション・ピークの雪庇をどうするかでしたが、ピッケルで雪庇を切り崩して切り抜けました。ここ（推定 6300m）を第３キャンプとして、アタック隊としてNとH君の 2 名を指名して 25 日早朝、快晴の中、出発しました。ところが 2 時間位で着くと思っていましたが正午を過ぎても半分位しか進んでいません。帰幕時間もあるので引き返すよう指示しました。

翌 26 日、昨日、ステップ工作に時間を取られたので、私と、ＨＩ、HA君とシェルパの 4 名でアタックに向かい午後 2 時 45 分に登頂に成功しました。隊員は夫々、トランシーバで登頂を確認の上、祝福し合いました。下山は左側が大雪庇、右側が一歩踏み誤ればマヤンディ・コーラに真っ逆さまに 1500m落下です。最悪ビバークを覚悟しましたが日没前にＣ３に帰幕しました。

ＢＣに下山後、ネパール政府連絡管路と山名について打ち合わせを行い、ここはシタバリと言って隠れた谷という意味でマラナヤーの悲恋の物語舞台だとの事、私から尖っていると言う言葉は何というと尋ねたら「ツツラ」と言うとの事、それでは「隠れた谷の尖った山という意味で「シタ・ツツラ」としましょうと提案しましたら、そうしましょうとなり決定し、連絡官は山名がネパール語で嬉しそうでした。これで政府の承認を得ました。因みに、三省堂の山名辞典にはシタ・ツツラ標高６６１１ｍと掲載されております。

SITA CHUCHURA（1970 年 10 月 26 日、日大隊により初登頂）＜2013 年 10 月 29 日ヒドンバレーより竹花晃さん撮影＞

シタ・ツツラ

先の監事・高橋正彦さんの印象に残る山でした。

ウォーキングクラブ報告　　杉本　正夫

●　東金御成り街道周辺散策①

歩行日/天候：10 月 3 日（晴れ）
参加者：L 杉本正夫、SL 高橋琢子、小林ユキ子、高橋正彦、三木雄三、大浦陽子、鎌谷繁、塩塚生二、小林義亮、竹園清孝、黒住清美(11 名)
タイム：大神宮下駅 10：00→船橋大神宮 10：20→奏の杜 11：10→森林公園 12：15→旧鴇田邸 14；00→実籾駅 14：20

東金御成り街道の始点である船橋大神宮では、なぜ始点が船橋で、終点が東金なのか、3 代将軍まで利用されていてそれ以降ほとんど使われなくなったのか等想像を交えて話をして出発です。車の多い街道はまっすぐ伸びていることを確認して、できるだけわき道にそれて、森林公園に到着。昼食後公園内の旧大沢邸で話好きそうなおじさんから古民家の話を詳しく聞いてゴール近くの旧鴇田邸でも確認しました。台風一過の素晴らしい天候に恵まれ、久しぶりのウォーキングを満喫しました。（杉本正夫）

●　東金御成り街道周辺散策②

歩行日/天候：10 月 9 日（晴れ）
参加者：L 杉本正夫、SL 高橋琢子、鎌谷繁、塩塚生二、高橋正彦、新井好夫、黒住清美(7 名)
タイム：実籾駅 10：00→御成り街道 10：10→11：00 花島公園 12：20→御成り街道 12：40→自衛隊下志津駐屯地 14：20→美しが丘公園 15：00→四街道駅 15：20

京成本線實籾駅から 250m南下した實籾交差点を左折して「御成り街道」(県道 69 号、長沼船橋線）に入る。庄屋作りの文化財にしたい位の豪邸が道の両側に続く、柿もたわわに実り、秋がきたなと感じてそよ風も心地よい。昼食は清流が流れる花島公園でとり、街道に戻ると前を見ても後ろ見ても道路は一直線である。ここからは御成り街道が唯一、陸軍によって曲げられた下志津駐屯地を遠回りして。JR 四街道駅到着しました。（高橋正彦）

●　東金御成り街道周辺散策③

歩行日/天候：11 月 7 日(日）（曇）
参加者：L 杉本正夫、塩塚生二、稲川由紀、稲川薫平、高橋正彦、小林義亮、宇津木仁典、国宗文、黒住清美(9 名)
タイム：四街道駅 10：00→御成街道 10：20→12：00 御成公園（昼食）12：30→13；00 お茶屋御殿跡 13：15→千城台駅 14：10

東金御成街道の 3 回目は旧陸軍によって御成街道が曲げられた区域の先まで行き、そこからまっすぐ伸びる御成街道を寄り道することなくひたすら歩いてお茶屋御殿跡に達した。ここから先は帰宅手段がなくなるので、残念だがタウンライナー千城台駅まで引き返して解散となった。（杉本正夫）

御成り街道シリーズは今回で終了です。

ウォーキングクラブのリーダーが令和４年から宇津木仁典さんに変わります。

杉本正夫さま　長いこと、ウォーキングクラブのリーダー有難うございました。

令和３年の計画は従来からの杉本正夫さんがリーダーでしたが、令和４年の３月までの計画は、杉本さんから宇津木さんに計画資料の引継ぎをしてもらい予定通り挙行する予定です。一部、変更となる場合は事前に会員に連絡します。令和４年度の４月からは「宇津木」カラーのウォーキングになると思われます。是非、ご支援の程よろしくお願い致します。

※リーダーの連絡先に宇津木さんのメールアドレスを追加しました。

日本山岳会晩餐会ウィーク記念登山　陣馬山　　齋藤米造

山行日/天候：12 月 5 日（快晴）
参加者：CL 三田博、SL 山口文嗣、三品京子、三田芳江、宮崎美智代、小川和敏、今井貴朗、湯下正子、宇津木仁典、
　　中田彩、齋藤米造（11 名）
タイム：陣馬高原下 9：37→陣馬山 11：08～12：45→明王峠 13：22→与瀬神社 15：07→相模湖駅 15：20

日本山岳会晩餐会ウイーク記念登山が、高尾山系陣馬山で開催され、千葉支部から 11 名が参加した。江戸と甲州を結ぶ古道、案下（あんげ）道（陣馬街道）の陣馬高原下バス停から、色づいた紅葉を楽しみながら、1 時間 30 分で陣馬山 855mに到着した。
お昼は三田さんのご厚意でお汁粉タイム。「想定以上にうまい！」と誰かの声、みんなで楽しいひと時を過ごした。山頂では、今日の記念登山を企画した上村さんをはじめとする JAC 山行委員会の皆さん、各支部メンバーなど 60 名近くの会員が集結し、白馬モニュメント前で記念撮影を行った。

下山は明王峠ルートを相模湖駅まで約 2 時間半で下った。
今日も山美化を実践。ゴミ一つないかと見えたが”22 の瞳”で探すと結構な収穫？があった。今後も山美化を続けよう。

支部山行の予定

● **山行の心得　－　リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。**

「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来てください。また、山行に見合った登山保険には必ず入ってきてください。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにしてください。

リーダーの連絡先	
杉本正夫	印刷版支部だよりを参照
宇津木仁典	
松田宏也	
三木雄三	
三田　博	
山口文嗣	
山田紀夫	
小川和敏	
三品京子	
山本哲夫	
今井貴朗	

≪難度≫
W ウォーキング
A　整備され歩行 2 ～ 3 時間
B　歩行 5 時間前後
C　歩行 7 時間前後、一部岩あり体力要
D　強い体力、岩技術要
E　高い適応能力要、危険度大
（難度は JAC 日本 300 名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。）

個人山行も計画書提出を；
送信先；chiba_jac@yahoo.co.jp

山　行　の　予　定（1月～5月）

日　　程	山　　名	難度	備　　考	ﾘｰﾀﾞｰ	締切
1月2日(日)	高宕山	B	初詣登山・志組林道から	三田	12 月 30 日(木)
1月15日(土)	房総の沢⑨鴨川セーナ沢	C	沢歩き、希望者で房総 Base 泊	三田	1月5日(水)
1月15日(土)	房総・津森山	A	大崩のスイセンから津森山を往復。希望者で房総 Base 泊。	松田	1月5日(水)
1月16日(日)	鹿野山古道⑤	B	鳥居崎～関の犬岩	山口	1月8日(土)
1月21日(金)	成田街道周辺⑤	W	宗吾霊堂と新勝寺初詣	宇津木	1月14日(金)
1月22日(土)	鷹ノ巣山	B	冬の静かな奥多摩を訪ねる。電車利用。	今井	1月10日(月)
1月23日(日)	房総の沢⑩キンダン川	C	房総の沢歩き	三田	1月15日(土)
1月29日(土)～31日	黒斑、高峰	D	群馬支部との交流登山。3 名募集冬山装備必要。1 泊でも可。	松田	12 月 31 日(金)
1月30日(日)	鹿野山古道⑥	B	関の犬岩～長狭街道	山口	1月23日(日)
1月31日(月)	成田街道周辺③	W	西印旛沼周游	宇津木	1月24日(月)
2月4日(金)～6日	裏磐梯スノーシュー	C	民宿泊で雪遊び	三田	1月5日(水)
2月5日(土)	大岳山	B	奥多摩駅から鋸尾根を登り白倉へ下りる	小川	1月25日(月)
2月9日(水)～10日	佐久間ダム周辺	W	房総ベース泊・同好会登録者限定10名まで	宇津木	1月26日(水)
2月15日(火)～16日	平日山行（房総）	B	房総 Base 泊で２つの山を。日帰りも可	松田	1月31日(月)
2月19日(土)	成田街道周辺④	W	臼井から宗吾参道まで	宇津木	2月12日(土)
2月20日(日)	鹿野山古道⑦	B	鹿野山を巡る登山道	山口	2月13日(日)
2月27日(日)	元清澄山、三石山	B	冬場に最適な千葉のハイキング	今井	2月14日(月)
3月8日(火)～9日	平日山行（三つ峠）	B	富士山が目の前（三つ峠山荘泊）裏三つ峠の最短コースから	松田	2月20日(日)
3月11日(金)～13日	瀬戸内・小豆島	C	最高峰の星ヶ城、岩山の碁石山等、新幹線＆レンタカー	今井	締切り
3月12日(土)	土浦と霞ヶ浦	W	自然学・三角洲地形を学ぶ	三木	3月5日(土)
3月10日(木)	西丹沢・ミツバ岳	B	ミツマタの季節に。電車利用	三田	3月1日(火)
3月19日(土)	六ツ石山	B	水根から登り奥多摩駅へ下りる	小川	3月10日(水)

日　　程	山　　名	難度	備　　考	ﾘｰﾀﾞｰ	締切
3月25日(金)	鉄道連隊廃線跡	W	新京成線から外れたところ	宇津木	3月18日(金)
3月26日(土)～27日	山の天気講習会	A	講師：ヤマテン猪熊氏(JAC会員) 26日PM座学講習､27日は房総Base周辺で山の天気ライブ講習	松田	3月19日(土)
4月2日(土)	高尾・日影澤林道	B	自然学・早春の植物と生きもの	三木	3月26日(土)
4月2日(土)	奥高尾バリエーション	C	城山北東尾根と景信山東尾根	三田	3月22日(火)
4月6日(水)	平日山行（鎌倉）	A	衣張山（お寺と花見）	松田	3月30日(水)
4月9日(土)	笠森観音	B	笠森観音～野見金公園往復	三品	3月26日(土)
4月13日(水)	桐生・吾妻山	A	平日山行	小川	4月5日(火)
4月16日(土)	大塚山・御岳山	B	静かな鉄五郎新道をイワウチワ群落を求めて。岩場少々有り。電車を利用	今井	4月3日(日)
4月22日(金)～23日	栃木・月山と夫婦山	C	アカヤシオと栗山の民宿泊	三田	3月22日(火)
4月29日(金)	三浦富士から武山	A	ツツジ祭り	松田	4月22日(金)
5月7日(土)	秋川・軍刀利沢	D	沢登り。武蔵五日市からタクシー	三田	4月25日(月)
5月14日(土)	子持山	B	６号橋登山口から	小川	5月5日(木)
4月29日(金)	滝子山	C	寂ショウ尾根から、岩場あり	三品	4月22日(金)
5月15日(日)～16日	(日)～(月)山行（栃木)	B	日光社山と袈裟丸のツツジ見頃	松田	4月24日(日)
5月21日(土)	足和田山と富士樹海	B	自然学クラブ	三木	5月14日(金)
5月21日(土)	川苔山	B	奥多摩の名瀑を訪ねて。電車を利用。	今井	5月8日(日)
5月27日(金)～28日	大菩薩・曲り沢	D	沢登り。民宿泊	三田	4月25日(月)

※　W；ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。

●　山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入してきてください。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名（続柄)、緊急連絡先電話番号
※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

コロナ対策　：　密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められた
ルールに従うようにしましょう。

お知らせ　―事務局から―

≪事務局から≫

【役員会報告】

〇9 月報告　9 月 22 日（水）リモート（松田、三田、山口、上村、杉本、小川、廿楽、山本、藤木、三品）

◇山行・行事報告　9/19 真間川 W、9/24 荒船山

◇山行・行事予定　東金御成り街道 W、茅ヶ岳、両神山、会津朝日岳など◇検討・報告事項　新ホームページ説明、緊急事態解除後の山行、支部だより 55 号、房総 Base、新会員会友親睦イベント、入退会報告ほか

〇10 月報告　10 月 20 日（水）リモート（松田、三田、三品、山本、小川、上村、山口、杉本、藤木）

◇山行・行事報告　10/3・9 東金御成り街道 W、10/9 茅ヶ岳、個人山行：四国

◇山行・行事予定　鹿野山古道、倉岳山・高畑山、東金御成り街道 W、伊予ヶ岳など

◇検討報告事項　11/27 山の医療講習会、群馬支部との交流、房総 Base 近況、新人交流イベント、ホームページ更新状況、入退会報告ほか

〇11 月報告　11 月 17 日（水）リモート（松田、山口、山本、山田、廿楽、上村、小川、三品、杉本、三田）

◇山行・行事報告　10/22～23 両神山、10/22～24 会津朝日岳、10/30 寂光沢、11/6 鹿野山古道、11/7 倉岳山・高畑山、11/7 東金御成り街道、11/13 伊予ヶ岳、11/14 鹿野山古道

◇山行・行事予定　王岳、子の権現、子持山など

◇検討報告事項　山の医療講習会役割分担と親睦登山、平日山行アンケート結果について、ウォーキング同好会リーダー退任について、晩餐会ウィーク、房総 Base、ホームページ更新、入退会報告など

●会員・会友の動向

≪入会・会友≫

S・U さん（荒川区）

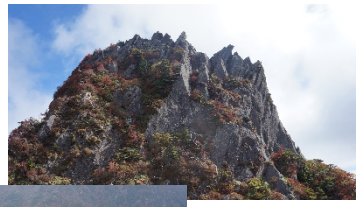
Y・K さん（江東区）

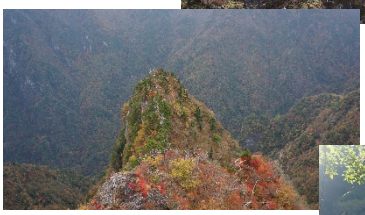
Y・K さん（座間市）

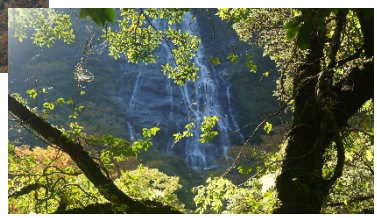
Y・T さん（足立区）

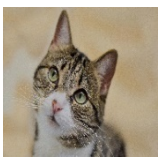
T・K さん（横浜市）

R・K さん（千葉市）









編集後記；編集 6 回目です。あっという間に 1 年間が過ぎ去りました。今後も皆さまのご意見を戴きながら、より良い「支部だより」にしていきたいと考えています。宜しくお願いいたします。

遅くまで暖かい日が続き、今年の紅葉は全国的に今ひとつだった感じです。自然現象なので良しとして来年の紅葉を楽しみにしたいと思います。

津田沼のヨシキスポーツさんにはＳＡＣ教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。　（ 小川和敏 ）

三陽メディア株式会社